

資料

雑誌名	鹿児島大学生涯学習教育研究センター年報
巻	1
ページ	87-104
URL	http://hdl.handle.net/10232/19134

資 料

医学部の国際島嶼医療学講座

鹿児島大学医学部は、離島というフィールドを積極的に生かして、全国的、世界的にもユニークな島嶼医療の医学教育と研究を進めている。医学部学生に対して、島嶼学の講義、実習、実験のカリキュラムが組織的に生まれ、離島医療を現場で実践している優秀なスタッフを臨床教授としている。離島医療の教科書は、離島の現場にあるという理念から、離島をフィールドとして、地域で活躍する第一線の実践的研究者を大学教育に活用しているのである。離島医療の現代における保健医療のあり方の原点をみつめるということで、離島の資源を生かしての未来志向的な教育と研究である。

この試みは、地域の自立的発展という、生涯学習社会時代の新たな大学教育と研究のあり方として、全学的に検討する価値ある事例であるということから、国際島嶼学講座に依頼して関係の資料を送付してもらった。本資料は、生涯学習教育研究センターとして抜粋したものである。なお本講座は、平成15年度より離島医療学講座に名称変更された。 (文責・神田 嘉延)

離島医療学講座教授就任のご挨拶

鹿児島大学医学部に離島医療学講座が新設され、初代教授として私が就任しました。平成14年3月15日の開講式典には県医師会長の鮫島耕一郎先生ほか、鹿児島県知事(代理)、県保健福祉部長(代理)、離島振興協議会長、医学部同窓会長の尾辻義人先生のご臨席のもと、医師会の諸先生や一般市民、学内外の関係者150余名の参加をえて盛大な式典が行われました。ご来賓の挨拶のなかで新設の離島医療学講座に対する熱い期待と励ましを賜り、本講座を主宰するものとして身に余る光栄でした。

今回新設されました「離島医療学講座」は世界初、本邦初のものであり、他に類をみない学問の中核が鹿児島に誕生しました。離島医療学のテキスト(教科書)は離島の現場にあるという信念にもとづいて、新しい教育と研究の概念を構築したいと考えております。鹿児島の離島海域にはかつて、フィラリア症などの原虫寄生虫疾患が蔓延しており、その撲滅にむけて鹿児島大学医学部の研究チームが奮闘した記録は有名です。今日の離島では過疎と高齢化がすすみ、救急医療とプライマリ・ケア、高齢者医療の問題が増大してきました。しかしながら、現代の都市型医療の拡大試行には限界があり、離島に最適な保健医療のありかたが求められています。離島の地理・伝統文化に根ざしたQOL(クオリティ・オブ・ライフ)はどうあるべきか、また、これを支える医師や人材はどのようにして育成すべきか、新しい視点に立った教育研究の構築が必要になりました。救急医療をふくめたプライマリ・ケア、高齢者医療、離島特有の疾病対策が当面の課題ですが、これらを実践し研究する人材の育成は焦眉の急です。離島診療で活躍されている諸先生には学生の教育に積極的に加わっていただき離島の現場で「医の原点」を教えてくださいたいとお願いする次第です。

離島医療学の中長期的展望には情報技術(ITなど)を駆使した遠隔医療や洋上大学の構想があります。鹿児島大学医学部のコア・カリキュラムをインターネットに載せて、東南アジアから西太平洋へ、そしてカリブ海の島々まで鹿児島の離島医療学のモデルを提供することができます。かごしま丸級の船舶を巡回させ洋上大学を開講して、現地国の近傍で実地訓練をおこなう「動く大学(Mobile University)」の構想です。優秀な学生にはクレジット(履修単位)を与え、鹿児島大学卒業の資格を与える「国際島嶼医療学」の確立も目指したいと思っております。一方、離島の自然の恵みを活かした「タラソセラピー(海洋療法)」の開発も有望と思っております。タラソセラピーの「癒し効果」については、科学的根拠が十分に検証されていないものがあります。鹿児島大学医学部に蓄積された学際研究の総力をあげて、タラソセラピーの実体を明らかにして、これを Evidence-based Medicine (EBM)に格上げする作業は新しい医療のフロンティアを開く意味で重要と思っております。このように、離島海域には学術面でも先端的な題材が残されており、離島医療学の学際研究には明るい展望がみられます。

南西諸島は九州と南方海域を結ぶ海の要衝として栄えた時代もありましたが、日本の近代産業と都市化の大波のなかで、離島社会の健全な発展が損なわれてきました。新設の講座では離島の人々が健康で安心、平和に暮らせる保健医療の新しいパラダイム(学問分野)を確立し、地域(島嶼)医療のモデルを提供していきたいと考えておりますので、鹿児島県医師会の諸先生には大所高所からのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年3月18日

鹿児島大学医学部離島医療学講座教授 園田俊郎

鹿児島大学医学部長永田行博殿

離島医療学実習の早期実施について

鹿児島大学医学部離島医療学講座は平成14年3月15日に開講式典を行ったばかりで開講から2か月足らずですが、現在、教官2名(教授、助教授)と大学院生1名の3人で、新しい講座の構築に専心しているところです。

平成14年3月末から県内6か所の離島を訪問し、現地の医療機関や行政担当者に会い、離島医療の現状と今後の課題を協議してきました。さらに、4月14日～26日の間には南米ボリビア、カリブ海、フロリダ、ワシントンDCを巡回し、各国の僻地、島嶼地域がかかえる医療問題と教育研究のあり方を視察してきました。その結果、県内の離島と海外の島嶼海域では全く共通の医療・保健の問題があり、これらを解決していくための研究が必要であるという共通認識をもつようになりました。当面の最重要課題として、離島(島嶼)医療学の教育のあり方が問われています。本講座の開講記念のリーフレットを英訳したもの(Commencement of Island Medicine)をボリビア、ジャマイカ、マイアミ、米国NIH(ワシントンDC)の教授たちに紹介したところ、私たちの離島医療に対する意図を直ちに理解し、鹿児島大学の離島医療学の経験と成果を彼らの僻地医療にも活用させてほしいと頼まれました。鹿児島大学医学部が創設した離島医療学の先進性とグローバルな貢献が約束されているように思われました。以上の現状認識にたち、離島医療学講座では開講以来「離島医療学シンポジウム:離島(島嶼)医療学—地域医療の新パラダイムの構築」と題して、毎月シンポジウムを開催し、ここでは学内はもとより多くの一般市民の参加も得て、学際的な討議が行われています。これら多くの意見を集約し、離島医療学の新しいコンセプトを構築する作業を行っているところです。

一方、離島医療における教育面での実績も本年度から積み重ねていきたいと考えています。県内離島の医療従事者や海外の教授たちとの意見交換でも認識されたように、離島医療学の教育では講義以上に実習が重要と考えています。特に医学教育の早い時期に離島医療の現場を体験させることが、離島僻地医療に理解と意欲をもつ医師を育てる第一歩と思われまます。つきましては、本年9月2日～14日の間に「離島医療学実習」のピロットスタディを試みたいと考えています。具体的には、医学科学生と保健学科学生、各々5人～6人の有志者を募り、2班に分け、県立大島病院(院長:小代正隆臨床教授)と与論島パナウル診療所(院長:古川誠二臨床教授)の2か所に3日間ずつ分宿、前後で両班を入れ替えて、それぞれの島嶼環境の異同と住民検診や医療現場を見学する実習内容を考えています。この実習を行うには、

1名につき約3万円(乗船費用、食費など)の費用が必要となります。そこで、本年度予算のなかから教官2名と学生12名の旅費、食費などの財源を捻出していただきたくお願いする次第です。

平成14年5月13日

鹿児島大学医学部離島医療学講座 教授 園田俊郎

(1)目的

離島の第一線の医療機関で、プライマリケア、救急医療、高齢者医療、さらに遠隔医療などを実際に体験し、離島医療に対する理解を深める。また、保健医療の面で離島のおかれている現状と問題点を実感し、政府の僻地医療に対する方針も理解した上で、離島医療の今後の方向性と将来の医師としての医学生生の役割について考察する。

(2)実習施設

1. 県立大島病院

病院紹介

奄美群島15万人の中心拠点病院として大島本島名瀬市にあり、15の診療科、400ベッドをもつ総合病院である(鹿児島県で3つしかない研修指定病院の一つ)。僻地中核病院、救急基幹病院、エイズ拠点病院として、一次から三次医療まで担っている。さらに、毎月の僻地巡回診療や僻地診療所とITネットによる医療支援も行っている。

指導医紹介

小代 正隆(鹿児島大学臨床教授、元鹿児島大学第一外科講師)…
院長

離島僻地医療の他に、血管外科が専門で、今年5月には第16回リム・サルベージ研究会を主催。丸山征郎教授とともに鹿児島大学の血液凝固系の研究を指導。

真田 純一(元鹿児島大学第二内科講師)…副院長

循環器内科(特に心臓超音波検査)が専門、第二内科循環器グループのチーフであった。奄美のご出身。

2. 誠友会パナウル診療所

医療紹介

与論島茶花港近くの高台に位置し、多目的スペースをもつユニークな木造建築の診療所(入院設備なし)。

指導医紹介

古川 誠二(鹿児島大学臨床教授, 元与論町国保診療所院長)…理事長

離島僻地医療の他に、終末医療、パストラルケア、健康増進運動(与論健康村村長)、タラソセラピー(鹿児島タラソセラピー研究会 事務局長)など地域に密着した医療保健運動を展開。

(4)実習予定(案)

9/6(金)松森君は瀬戸内町僻地診療所の巡回診療(8:30~17:00)に参加

大島郡瀬戸内町古仁屋 1055-1 Tel. 09977-2-3211

9/7(土), 9/8(日)吉田君, 松森君の宿舎は県立大島病院で確保(9/8(日)大辻君の宿舎も県立大島病院で確保)

9/13(金)吉田君, 松森君は名瀬→鹿児島(船舶)の予定

9/30(月)レポート提出期限

	AM	PM	Night	備考
9/1 (日)	移 動	島内視察	18時 ミーティング 親睦会	船内レクチャー
9/2 (月)	外来or 地域福祉センター	往診, 外来	講 義	
9/3 (火)	外来or 地域福祉センター	外来 タラソセラピー体験	三味線教室 かりゆしバンド	
9/4 (水)	自由時間	移 動	移 動	船内レクチャー
9/5 (木)	オリエンテーション 院内見学	内科回診 (6 東)	救急待機	
9/6 (金)	内視鏡, 透視, 外科病棟	麻酔, 手術見学 (手術場)	救急待機	
9/7 (土)	医師会病院, 虹の丘	自由時間	移動	船内レクチャー

健康科学専攻 国際島嶼医療学講座	
島嶼医療学特論Ⅰ 講義（2単位）演習（2単位）	
テーマ：日本の南西諸島における島嶼医療学の展開	
コーディネーター：園田俊郎	
GIO：南西諸島住民の疾病動態を解析し、プライマリケア、救急医療、高齢者医療の重点項目を学習する。	
SBO： 1. 南西諸島の地理、人口動態、疾病動態を説明できる。 2. 離島の医療機関、医療資源、保健所の活動内容を説明できる。 3. プライマリケアと救急医療の実践項目について説明できる。 4. 高齢者医療の問題点を列挙できる。	
講義内容	講師
離島医療学 総論	園田
2. 離島の人口動態と医療資源	秋葉*
3. 南西諸島の地理と歴史	園田
4. 離島の疾病動態	郡山*
5. 離島の生活環境	竹内*
6. 離島の保健環境	青山*
7. プライマリケア 総論	安部
8. プライマリケア 各論	安部
9. 緊急医療 総論	上村*
10. 緊急医療 各論	具志堅*
11. 高齢者医療 総論	園田
12. 高齢者医療 各論	園田
13. 高度医療とQOL	安部
14. 高度医療機関への搬送システム	安部
15. 総括	園田

健康科学専攻 国際島嶼医療学講座	
島嶼医療学特論Ⅱ 講義（2単位）演習（2単位）	
テーマ：島嶼環境と疾病特性	
コーディネーター：園田俊郎	
GIO： 南西諸島に特有の疾病について環境宿主要因を学習する。	
SBO： 1. 閉鎖集団にみられる遺伝性疾患を説明できる。 2. 離島に好発する感染症の種類を説明できる。 3. 感染症の原因として重要な病原体の種類を列挙できる。 4. 離島に特有の疾病が生活習慣病に与える影響について説明できる。	
講義内容講師	講師
1. 離島における疾病特性 総論－1	園田
2. 離島における疾病特性 総論－2	園田
3. 遺伝性疾患の基礎	安部
4. 南西諸島の遺伝性疾患－1	安部
5. 南西諸島の遺伝性疾患－2	安部
6. 南西諸島の遺伝性疾患－3	安部
7. 感染性疾患の基礎	園田
8. 南西諸島の感染性疾患－1	園田
9. 南西諸島の感染性疾患－2	園田
10. 南西諸島の感染性疾患－3	園田
11. 生活習慣病の基礎	安部
12. 南西諸島の生活習慣病－1	安部
13. 南西諸島の生活習慣病－2	安部
14. 南西諸島の生活習慣病－3	安部
15. 総括	園田

健康科学専攻 国際島嶼医療学講座	
島嶼医療学特論Ⅲ 講義（2単位）演習（2単位）	
テーマ：島嶼環境での疾病予防と治療の方策	
コーディネーター：園田俊郎	
GIO： 島嶼海域住民の疾病予防と治療の実践項目を学習する。	
SBO： 1. 感染症対策の要点を説明できる。 2. 栄養と疾病の相関を説明できる。 3. 生活環境と疾病リスクの相関を説明できる。 4. 熱帯感染症の治療について概要を説明できる。	
講義内容	講師
1. 島嶼海域住民の疾病予防と治療の方策 総論－1	園田
2. 島嶼海域住民の疾病予防と治療の方策 総論－2	園田
3. 島嶼海域における感染症の予防と治療－1	園田
4. 島嶼海域における感染症の予防と治療－2	園田
5. 島嶼海域における熱帯感染症の予防と治療－1	園田
6. 島嶼海域における熱帯感染症の予防と治療－2	園田
7. 島嶼海域における生活環境	安部
8. 島嶼海域における職場環境	安部
9. 島嶼海域における生活習慣病の予防：栄養－1	安部
10. 島嶼海域における生活習慣病の予防：栄養－2	安部
11. 島嶼海域における生活習慣病の予防：アルコール	安部
12. 島嶼海域における生活習慣病の予防：喫煙	安部
13. 島嶼海域における生活習慣病の予防：運動	安部
14. 島嶼海域における生活習慣病と海洋療法	安部
15. 総括	園田

健康科学専攻 国際島嶼医療学講座	
島嶼医療学特論Ⅴ 講義（2単位）演習（2単位）	
テーマ：島嶼医療と Telemedicine	
コーディネーター：園田俊郎	
GIO： 島嶼海域における Telemedicine と情報技術（I.T.）について学習する。	
SBO： 1. IT ネットによる遠隔医療の原理について説明できる。 2. 患者情報と検査データの電送システムを説明できる。 3. 遠隔医療の効用と難点について説明できる。 4. 中核医療センターの機能と役割について説明できる。	
講義内容講師	講師
1. 遠隔医療における情報ネットワーク：総論－1	園田
2. 遠隔医療における情報ネットワーク：総論－2	園田
3. 離島医療と情報ネットワーク：基礎－1	熊本*
4. 離島医療と情報ネットワーク：基礎－2	園田
5. 離島医療と情報ネットワーク：基礎－3	安部
6. 住民の生活環境の修正と情報ネットワーク	村永*
7. 疾病予防と情報ネットワーク	安部
8. プライマリケアと情報ネットワーク－1	安部
9. プライマリケアと情報ネットワーク－2	中川*
10. 緊急医療と情報ネットワーク－1	安部
11. 緊急医療と情報ネットワーク－2	安部
12. 高度医療と情報ネットワーク－1	安部
13. 高度医療と情報ネットワーク－2	宇宿*
14. 医療従事者の生涯教育と情報ネットワーク	園田
15. 総括	園田

*協力講座（医療情報管理学、内科学第三）

健康科学専攻 国際島嶼医療学講座	
島嶼医療学特論Ⅳ 講義 (2単位) 演習 (2単位)	
テーマ：東南アジア、西太平洋海域での国際島嶼医療学の展	
コーディネーター：園田俊郎	
GIO： アジア、西太平洋の島嶼海域における疾病の動態と民族疫学を学習する。	
SBO： 1. 日本以外の島嶼海域の特性について説明できる。 2. 東南アジア、西太平洋の島嶼海域と日本との関係について説明できる。 3. 疾病の民族疫学について説明できる。 4. 熱帯感染症について説明できる。	
講義内容	講師
1. アジアの島嶼海域における疾病動態 総論	園田
2. 西太平洋の島嶼海域における疾病動態 総論	園田
3. 東南アジア、西太平洋島嶼海域の地理	野田*
4. 島嶼海域の民族構成	安部
5. 島嶼海域における国家成立の歴史	安部
6. 島嶼海域と日本との関係－1	安部
7. 島嶼海域と日本との関係－2	青山*
8. 島嶼海域と民族疫学－1	安部
9. 島嶼海域の民族疫学－2	安部
10. 島嶼海域の民族疫学－3	安部
11. 島嶼海域の遺伝性疾患	安部
12. 島嶼海域の熱帯感染症－1	園田
13. 島嶼海域の熱帯感染症－2	園田
14. 島嶼海域の熱帯感染症－3	園田
15. 総括	園田

*協力講座 (多島圏研究センター)

健康科学専攻 国際島嶼医療学講座	
島嶼医療学特論Ⅵ 講義 (2単位) 演習 (2単位)	
テーマ：洋上大学と異文化交流	
コーディネーター：園田俊郎	
GIO： 島嶼海域における異文化交流と洋上大学の役割について学習する。	
SBO： 1. IT ネットによる遠隔教育について説明できる。 2. IT ネットによる遠隔医療支援について説明できる。 3. 英語会話による国際コミュニケーションができる。 4. 外洋での洋上大学と現地調査活動に参加できる。	
講義内容	講師
1. 島嶼海域における洋上大学と異文化交流 総論	園田
2. 島嶼海域における洋上大学と異文化交流 各論	大嶋*
3. 島嶼海域における IT ネットによる遠隔教育－1	安部
4. 島嶼海域における IT ネットによる遠隔教育－2	マルビー*
5. 島嶼海域における IT ネットによる遠隔教育－3	安部
6. 島嶼海域における IT ネットによる遠隔医療支援－1	安部
7. 島嶼海域における IT ネットによる遠隔医療支援－2	皆越*
8. 島嶼海域との国際交流－1	園田
9. 島嶼海域との国際交流－2	園田
10. 島嶼海域でのフィールドワーク－1	園田
11. 島嶼海域でのフィールドワーク－2	園田
12. 島嶼海域でのフィールドワーク－3	谷口*
13. 島嶼海域での洋上大学のプログラム－1	園田
14. 島嶼海域での洋上大学のプログラム－2	園田
15. 総括	園田

*協力講座 (留学生センター、医療総合講座、内科学第一)

離島医療学シンポジウム（平成 14 年 3 月～15 年 3 月）

「離島（島嶼）医療学 – 地域医療の新パラダイムの構築」

開催場所：鹿児島大学医学部鶴陵会館、開始時間：18 時～

- 第 1 回 3 月 15 日（金）「美しい Garden Islands – 海洋連邦の構想」
国際日本文化センター
教授 川勝 平太
- 第 2 回 4 月 8 日（月）「洋上大学と異文化交流」
鹿児島大学留学生センター
教授 大嶋 真紀
- 第 3 回 5 月 9 日（木）「タラソセラピー（海洋療法）」
鹿児島タラソセラピー研究会
事務局長（パナウル診療所 理事長）
古川 誠二
- 第 4 回 6 月 7 日（金）「カオス理論の離島医療への展開」
1. 「プライマリ・ケアとカオス代替医療」
C.C.Inc.
カオス複雑系事業部主任研究員 宮崎 和成
2. 「カオス I.T. ネットによる遠隔医療」
C.C.Inc.
代表取締役 野藤 泰昇
- 第 5 回 7 月 26 日（金）「カリブ海における離島医療」
1. 「南米・カリブ海の疾病」
米国国立癌研究所（NCI）研究員
M.Hisada
2. 「カリブ海の離島医療と医学教育」
マイアミ大学内科 教授
J.J. Byrnes
- 第 6 回 9 月 13 日（金）「離島を育てる」
屋久島在住 作家・翻訳家 星川 淳
- 第 7 回 10 月 11 日（金）「21 世紀の食を考える – 生活習慣病に対する Preventive Nutrition」
1. 「国民の栄養の現状と展望」
鹿児島県栄養士会
会長 立川 俱子
2. 「離島における食生活」
鹿児島県栄養士会
理事 西村 和子
- 第 8 回 11 月 8 日（金）「離島医療の最前線」
1. 「離島医療に生きる」
下甕村国保手打診療所
所長 瀬戸内 健二郎
2. 「離島医療の光と影」
下甕村国保長浜診療所
所長 伊地知 信二
- 第 9 回 12 月 6 日（金）「情報技術（IT）の展開」
1. 「情報技術（IT）による遠隔医療」
鹿児島大学医学部医療情報管理学
講座 教授 熊本 一朗
2. 「情報技術（IT）による遠隔教育」
鹿児島大学医学部医療情報管理学
講座 助教授 宇宿 功一郎
- 第 10 回 1 月 17 日（金）「鹿児島島の僻地医療」
1. 「離島における保健医療の特性」
徳之島保健所
所長 中俣 和幸
2. 「僻地医療と自治医科大学」
鹿児島県地域医学研究会 会長
（伊集院保健所 所長）宇田 英典
- 第 12 回 3 月 7 日（金）「離島で育つ」
1. 「離島での成育医療と小児疾患予防 – 健やかな発達をめざして」
鹿児島県大学医学部小児科学講座
助教授 吉永 正夫
2. 「“奄美における子育て” から少子化対策を考える」
鹿児島大学医学部保健学科
教授 銚之原 昌